

ようこそお帰りなさい

輝く未来へ 今ジャンプ!!

第24回 ホームカミングデー

中央大学卒業生の祭典、「第24回ホームカミングデー」は10月25日、多摩キャンパスで開催され、全国各地から集まったOB・OGら約4400人は旧交を温め、多彩なイベントを楽しんだ。

創立130周年を起点に

秋晴れのもと、最寄りの多摩都市モノレール駅などからキャンパスに入ると、遊歩道「グリーンテラス」沿いに無数に並んだ白い歓迎旗が目飛び込んできた。入場受付で大学名入りの紙バッグが渡される。中身は

この日のプログラムや大学のいまを伝える各種発刊物。

開会式は、三日月形状建物のクレセントホール(9号館)で行われた。今回のテーマは『創立130周年を起点に輝く未来を創造しよう』。

林勘市運営委員会委員長が「ようこそ お帰りなさい」と開会を高らかに宣言した。

深澤武久理事長がグローバル人材育成の推進など大学の中長期事業計画の概略を説明。酒井正三郎総長・学長が司法試験合格者・法科大学院別で全国1位奪取、国家公務員総合職合格者・私大3位、全国7位の実績などを報告した。久野修慈学員(中大卒業生) 会会長は、学員は大学の財産と称えた。

来賓を代表して登壇したのは、中大OBでことし6月に2020年東京オリンピック・パラリンピック担当大臣に就任した遠藤利明氏(1973年卒業)。酒井総長・学長とは同期生という。

「昭和44(1969)年に入学しましたが、学園闘争の影響で入学式は9月でした。休講が相次ぎ、勉強がままならないときもありましたが、実に



東京オリンピック・パラリンピック担当大臣の遠藤利明氏

多くのことを学ばせていただいた。中大には力があります。元気がある。後輩たちには社会のリーダーシップをとって頑張っていたいただきたい」

華やかな雰囲気の中、創立130年記念・論文コンテスト最優秀論文表彰、続いて中大に親子三代(直系)が学んだ家族15組の表彰などが行われた。

この日のため、キャンパス内には約40もの企画やイベントが用意されていた。講演会と展示の「中央大学とオリンピック」、売れっ子の落語家4人が集まった落語会、法律や税務などの無料相談、親子企画・スポーツ企画、各種演奏会、茶道会による呈茶、各種模擬店、地域支部、年次支部、同窓会など。OB・OGを



大いに盛り上がったホームカミングデーの開会式

対象とした集まりのために教室の貸し出しも行った。

最後に自動車メーカー、スズキの「アルト」などが当たる福引き抽選会が待っている。

卒業生は、思い思いの場所へ出掛けて行った。

(主催・学校法人中央大学、協賛・中央大学学員会)

スポーツは強くなければ 遠藤五輪相語る

講演会「中央大学とオリンピック」は会場を8号館に移して行われた。会場の大教室、8304教室は超満員。プロ野球元巨人の末次民夫氏(中大硬式野球部OB会会長)、バレーボール・1968年メキシコ五輪銀メダルの小泉勲氏(日本バレーボール・オリンピックの会理事長)らも参加。学内からは校友会体育連盟加盟の各部監督・コーチ、選手らが既に着席していた。

司会の吉田填一郎・元日本テレビアナウンサー(1969年卒業)に紹介されて、遠藤利明五輪相が登壇すると場内は大きな拍手に包まれた。

遠藤五輪相が語る。「学生時代、当時練馬にあった体育施設にマスコミがよく取材にきていました。お目当ては陸上競技女子走り高跳びの稲岡美千代選手。白いカモシカと呼ばれたミュンヘン五輪代表選手です。スポーツは強くないとダメです。ラグビークラブの私はそれを見ていました。子供たちは強い選手にあこがれます。そうして選手層が増えていく。先のワールドカップで大活躍したラグビーは、これから競技人口が増えていくでしょうね」

2020年東京五輪・パラリンピック開催に向けて、新国立競技場の建設

から安全安心な大会運営まで諸問題に取り組んでいる。サイバー攻撃を懸念していて、2012年ロンドン五輪であった2億回を超える被害を東京開催では最小限度に抑えるべく関係各機関と協議を重ねていると話した。



卒業生55万人以上

1885(明治18)年に増島六一郎ら若き18人の法律家によって「英吉利法律学校」が設立されて以来、中央大学出身者は、実に55万3807人(2015年3月25日現在)。法曹界はもちろん、政界、官界、実業界からマスコミ、芸能・音楽・スポーツなどあらゆる分野で活躍しています。また、海外で活躍する卒業生も増えています。(中大発行・アナタと中央大学を“つなぐ”情報マガジン Connect から)

「オリンピックと私」

考えることを教えてくれた松平監督

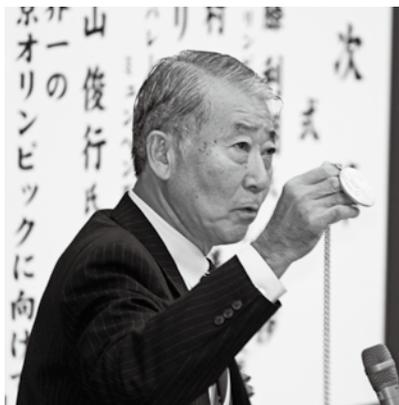
引き続き、1972年ミュンヘン五輪バレーボール金メダリストで、現在は日本バレーボール協会会長の木村憲治氏(1968年卒業)を講師に招いた講演・I「オリンピックと私」が行われた。

「私は19歳で全日本チームに入りました」

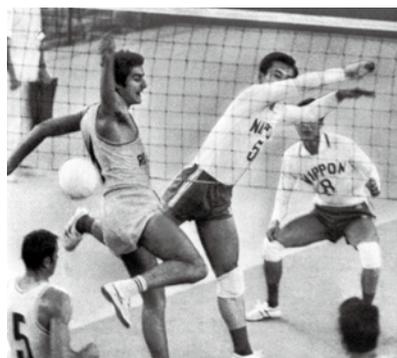
1965年だった。全日本は前年の東京五輪で銅メダル。1968年メキシ

コ五輪で銅メダル以上を目指していた。

「懸命にプレーしても私のプレーはすぐに止められる。そんなプレーがたびたびあって、ベンチでスコア



日本バレーボール協会会長の木村憲治氏



金メダル獲得につなげたミュンヘン五輪男子バレー 木村選手のプレー(写真提供:産経新聞社)

を付けろと言われた。2軍降格、終わったか、と思いましたがね」

身長185センチ、国内では大型選手であっても、世界レベルでは小柄とみられた。世界で戦うには独自のプレーを編み出そうと、大学同僚選手の手を借りて練習を重ねた。

1972年ミュンヘン五輪で悲願の金メダルを獲得する松平康隆監督は常々こう言っていたという。「一人ひとりが世界のプレーをする。それが金メダルにつながる」。木村氏の心にも、この言葉が刻み込まれていた。

「松平監督は私ら選手に『考える』ことを教えてくれました。指導者の言うままだったら、指示待ち人間になってしまう」

選手は自分で考え、練習し、試合で使えるようにする。木村氏はついに「Bクイック」を考えだした。新しいクイックプレーである。

木村氏は会場で金メダルを披露した。場内遠くの席からでも黄金色が



はっきり分かる。

「いまでこそメダリストには所属協会から報奨金が支給されるが、当時はまったくなかった」

現在は日本バレーボール協会会長職にある。

「金メダルを獲得した選手に報奨金を出しますが、オリンピックに出られたらいい、なんて思っていたら

ダメだと思えますよ」

「最後にお願ひがあります。ビーチバレーボールに注目していただきたい。バレーボールの競技人口の半分はビーチバレーボールプレーヤーです。2012年ロンドン五輪では約1万2000人収容のスタンドが満員になるほど世界的に人気のある競技です」

Bクイックを編み出した木村氏。今後のバレーボール界に大きなうねりを予感させる講演だった。



満員の講演会場

講演② 秋山俊行氏&雑賀真氏

「世界一の東京オリンピックに向けて」

2020年東京五輪・パラリンピック組織委員会で中大OBが要職に就いている。

秋山俊行氏(1977年卒業)は東京都副知事で組織委員会副会長。雑賀真氏(1978年卒業)は組織委員会総務局長、大学連携担当、チーフ・コン

プライアンス・オフィサー。

2人による講演・Ⅱ「世界一の東京オリンピックに向けて」は大型スクリーンを使って、「東京がオリンピックに向けて、どう変わっていくのか」を説明し、東京の魅力や活力などをアピールした。



講演する雑賀氏(左)と秋山氏

第24回ホームカミングデー親子三代表彰者(15組)

1	石倉 孝昭(イシクラ タカアキ) 予科(昭和20年卒業)	石倉 俊紀(イシクラ トシキ) 文学部文学科(昭和59年卒業)	石倉 ももこ(イシクラ モモコ) 文学部人文社会学科(平成27年入学)1年生
2	稲垣 武一(イナガキ タケイチ) (故) 法学部(昭和16年卒業)	稲垣 武文(イナガキ タケフミ) 法学部政治学科(昭和40年卒業)	稲垣 健一(イナガキ ケンイチ) 商学部経営学科(平成8年卒業)
3	井出 宝(イデ タカラ) 経済学部(昭和28年卒業)	井出 匡弥(イデ マサミツ) 商学部商業・貿易学科(昭和60年卒業)	井出 宝(イデ タカラ) 経済学部経済情報システム学科(平成26年入学)2年生
4	久慈 将之(クジ マサユキ) 商学部(昭和33年卒業)	久慈 宏明(クジ ヒロアキ) 商学部商業・貿易学科(昭和62年卒業)	久慈 翼(クジ ツバサ) 経済学部経済学科(平成26年入学)2年生
5	後藤 昌弘(ゴトウ マサヒロ) 予科(昭和23年卒業)	後藤 弘之(ゴトウ ヒロユキ) 経済学部経済学科(昭和58年卒業)	後藤 晶乃(ゴトウ アキノ) 商学部商業・貿易学科(平成25年入学)3年在学
6	小松 弘二郎(コマツ コウジロウ) 法学部(昭和28年卒業)	小松 克年(コマツ カツトシ) 商学部商業・貿易学科(昭和57年卒業)	小松 優太(コマツ ユウタ) 法学部政治学科(平成24年入学)4年生
7	高橋 正(タカハシ タダシ) (故) 法学部(昭和2年卒業)	鶴 靖子(ツル ヤスコ) 文学部哲学科(昭和40年卒業)	鶴 倫彰(ツル ミチアキ) 商学部会計学科(平成10年卒業)
8	竹中 況三(タケナカ キョウゾウ) 工学部工業化学科(昭和30年卒業)	竹中 政彦(タケナカ マサヒコ) 法学部法律学科(昭和59年卒業)	竹中 祐梨子(タケナカ ユリコ) 法学部法律学科(平成27年入学)1年生
9	中吉 佐一(ナカヨシ サイチ) (故) 専門部法学科(昭和6年卒業)	中吉 章一郎(ナカヨシ ショウイチロウ) 法学部法律学科(昭和35年卒業)	鈴木 晶子(スズキ アキコ) 文学部文学科(昭和63年卒業)
10	長谷川 謙治(ハセガワ ケンジ) (故) 商学部(昭和2年卒業)	長谷川 徹(ハセガワ トオル) 法学部法律学科(昭和33年卒業)	長谷川 敦史(ハセガワ アツシ) 商学部経営学科(平成4年卒業)
11	丸地 守(マルチ マモル) 法学部(昭和29年卒業)	丸地 歩(マルチ アユム) 理工学部精密機械工学科(昭和55年卒業)	丸地 彩加(マルチ アヤカ) 経済学部国際経済学科(平成27年入学)1年生
12	三島 益夫(ミシマ マスオ) (故) 経済学部(昭和3年卒業)	三島 庸道(ミシマ ツネミチ) 法学部(昭和28年卒業)	三島 智美(ミシマ トモミ) 法学部通信教育課程(平成25年卒業)
13	安永 澤太(ヤスナガ サワタ) (故) 法学部(大正11年弁護士試験合格)	安永 宏(ヤスナガ ヒロシ) 法学部政治学科(昭和38年卒業)	安永 治郎(ヤスナガ ジロウ) 専門職大学院法務研究科(平成22年修了)
14	柳澤 保司(ヤナギサワ ヤスジ) (故) 専門部経済学科(昭和18年卒業)	柳澤 享(ヤナギサワ タカシ) 文学部哲学科(昭和53年卒業)	柳澤 マリア(ヤナギサワ マリア) 理工学部生命科学科(平成26年入学)2年生
15	山岸 賢一(ヤマギシ ケンイチ) 法学部法律学科(昭和33年卒業)	山岸 一利(ヤマギシ カズトシ) 経済学部産業経済学科(平成元年卒業)	山岸 優未(ヤマギシ ユウミ) 経済学部公共・環境経済学科(平成27年入学)1年生